



平成 21 年 9 月 14 日

各 位

会 社 名 シンワオックス株式会社
代表者名 代表取締役社長 佐藤 勝弘
(コード番号 2654 大証第二部)
問合せ先 取締役管理本部本部長 橋本 幸延
(TEL. 06-6683-3101)

業績予想修正および特別損失の計上に関するお知らせ

平成 21 年 5 月 19 日に公表いたしました平成 22 年 3 月期の第 2 四半期累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）および通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）における業績予想を下記のとおり修正いたします。また、平成 22 年 3 月期第 1 四半期会計期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間（平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日）業績予想の修正

(1) 連結

(単位：百万円，%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	9,717	53	△64	△120	0 円△79 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	8,285	△381	△512	△857	△ 5 円 67 銭
増 減 額 (B-A)	△1,432	△434	△448	△737	
増 減 率 (%)	△14.7	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 20 年 9 月期)	11,441	△248	△398	△553	△10 円 71 銭

(2) 個別

(単位：百万円，%)

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	9,313	56	△62	△116	0 円△77 銭
今 回 修 正 予 想 (B)	7,054	△384	△508	△852	△ 5 円 63 銭
増 減 額 (B-A)	2,259	△440	△446	△736	
増 減 率 (%)	△24.3	—	—	—	

2. 平成22年3月期通期（平成21年4月1日～平成22年3月31日）業績予想の修正

（1）連結

（単位：百万円，％）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	19,731	372	164	85	0円56銭
今 回 修 正 予 想 (B)	15,182	△344	△587	△1,100	△7円27銭
増 減 額 (B－A)	△4,549	△716	△751	△1,185	
増 減 率 (%)	△23.1	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成21年3月期)	21,920	△334	△662	△1,217	△13円05銭

（2）個別

（単位：百万円，％）

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前 回 発 表 予 想 (A)	18,880	360	151	74	0円49銭
今 回 修 正 予 想 (B)	12,799	△382	△613	△1,125	△7円43銭
増 減 額 (B－A)	△6,081	△742	△764	△1,199	
増 減 率 (%)	△32.2	—	—	—	

3. 修正の理由

（1）連結第2四半期累計期間における業績予想の修正について

平成20年10月より開始した給食事業におきましては、安定した売上、利益を確保しており、堅調に推移しております。また、卸売およびホテル事業におきましても、第1四半期連結会計期間において、売上規模が縮小したものの、営業利益においてはコスト削減等の施策が功を奏し、予想を上回る結果となりました。

しかしながら、外食事業におきましては、不況を背景に消費が冷え込む中、主力業態である「地鶏 ごちそう処 とりひめ」において、「もっと鶏をもっと野菜と」をテーマに春のグランドメニューを一新し、商品単価を抑えるとともに、食材へのこだわりと手作り感を打ち出し、商品力とサービス力による集客を試みました。それにより、店舗ごとに独自性を発揮し、お客様から支持を得るなどの成果が見られましたが、原価率の上昇をはじめ、仕込み時間の増加による労務費の圧迫等により、一時的に収益効率が低下したことに加え、関西地区で発生した新型インフルエンザの影響により、客数減を招くなど、売上、利益共に大幅に減少いたしました。

また、特別損失といたしまして、店舗の撤退に伴う閉鎖損失および固定資産の売却損として42百万円、事業譲渡に係る和解金として106百万円、貸倒引当金繰入額として230百万円等の計379百万円を第1四半期連結会計期間に計上したため、純損失において、予想と大きく乖離いたしました。

以上により、第2四半期累計期間における連結の業績予想数値に関しまして、売上高を8,285百万円、営業利益を△381百万円、経常利益を△512百万円、当期純利益を△857百万円に修正しております。

（2）連結通期における業績予想の修正について

外食事業におきましては、苦戦を強いられる中、収益改善に向けての施策を講じており、挽回の兆しを見せておりますが、当初の予想と大きく乖離しているため、現状のトレンドを鑑み、第2四半期以降の計画を見直しております。

また、今後、不採算店舗を積極的に整理し、収益力の強化を図る方針でありますので、閉鎖および譲渡予定店舗につきましては、それによる損失の吸収および閉鎖損失等を第3四半期以降の計画に織

り込んでおります。

卸売およびホテル事業におきましては、今後も堅調に推移する見込みであります。売上規模が縮小傾向であることを鑑み、予想を修正しております。

以上により、通期における連結の業績予想数値に関しまして、売上高を 15,182 百万円、営業利益を△344 百万円、経常利益を△587 百万円、当期純利益を△1,100 百万円に修正しております。

(3) 個別業績予想の修正について

主に連結業績予想と同一の要因によるものであります。

4. 特別損失の計上について

特別損失といたしまして、店舗の撤退に伴う閉鎖損失および固定資産の売却損として 42 百万円、事業譲渡に係る和解金として 106 百万円、貸倒引当金繰入額として 230 百万円等の計 379 百万円を計上するものであります。

なお、上記「貸倒引当金繰入額」に関しましては、平成 21 年 7 月 29 日付「業績に影響を与える可能性のある事象の発生に関するお知らせ」および平成 21 年 9 月 11 日付「外部調査委員会による調査報告（最終）に関するお知らせ」にて公表の内容に関し、当該事象の対象となる金銭の回収が見込めないものとして、230 百万円を貸倒引当金繰入額として計上するものであります。

(注) 上記の予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合がございます。

以 上